

パソコン教室の窓から (7)

NPO 法人コミュニティ NET ひたち(Cnet) 久保 裕

『80歳起業』の物語

最近、NPO（特別非営利活動法人）のことを分かり易く解説することを考えていたら、昨年3月発刊の本『80歳起業』ちえのいずみ著に出会いました。

非営利事業はどういう人が取り組むのでしょうか。なんととっても少しの資産でもある人は資産を運用してお金を増やしたいし、そして定年退職したら心身永閑や遊休閑居で過ごしたいと望みますね。しかし会社で経験したことや自分が得意とすることを生かして生活し続けられればとても幸せなことだと思うのです。山の中で行方不明になった子どもを救出したおじいさんはスーパーボランティアと呼ばれました。何の報酬も求めませんでした。

日本で本格的な NPO 活動が立ち上がったのは 1995 年の阪神淡路大震災の後でした。多額の義援金や寄付金が集まっても、政府や自治体は役人を現地に派遣するが実労ができる職員はいない。彼らは法律で定められた範囲内で仕事をするという限界がある。個人的に全国から多くのボランティアが集まったが組織的に活動することができませんでした。

1998 年に特定非営利活動促進法（いわゆる NPO 法）が施行されました。地域の問題点を掘り起こして地域の活性化のために行政や企業ではできないことに市民一人ひとりが中心になって活動するのが NPO なのです。

2018 年 1 月にまとめた日立市の情報化指針の基本方針の一つに高齢者社会に対応した情報化推進が上げられていました。やさしく言えば高齢者がスマホやパソコンを楽に使えるようにしようということです。市内の高齢者世代のスマホの普及率は 30% 台です。これをデジタルデバインドといいます。格差社会ですね。これは見過ごしてはならないのです。どんどん増加する独居老人に対して訪問医療、看護や介護の充実を進めていくとともに、AI 時代に乗り遅れないように支援する具体的な活動が必要なのです。

今、私たちの NPO は日立市に具体的な活動を働きかけています。設立後 17 年も経過すると会員の平均年齢は 70 歳近くになりました。老いや病と付き合いながら年取ることを楽しみにしていく人生を歩みたいものです。

『80歳起業』の物語の主人公は 1926 年昭和元年の生まれ。東京の大空襲を生き抜くが、憲兵だった父の浮気が原因で両親は離婚しその後母と会うことはなかった。大学を卒業して教員になるが、その職にあきたらず旅行斡旋会社に転職してガイドや通訳などの才能を生かして 70 歳を過ぎても忙しい人生を送っていた。病との闘いがありながら、80 歳になっても講演での話は、「自分の残りの生涯を、社会貢献のため、人様のために使おうとしているか」「自分の残りの生涯を、自分のためだけに使おうとしているのですか」「皆さんはどちらの道を歩んでいるのですか」

と生活に不安や不満を持っている人に問いかけるのでした。

77 歳の時は「満期がきたら 3 年単位で延長する、というルールをつくりました」と、これが楽しく生きる秘訣かなと思い紹介しました。